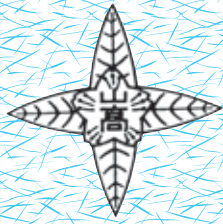


第73号

編集・発行 日本大学山形高等学校
図書部
図書委員会

発行日
平成30年2月28日

(株)大風印刷



大形山形 図書館報



忘れられない一冊

教頭 島津 宏道

戦後、わが国周辺地域においては、二国間及び多国間の連携・協

力関係の強化が図られ、平和状態にある。しかし、ある国では核実験、弾道ミサイルの開発、過去に例を見ない頻度での発射などを通して、わが国を含む地域の平和と安定に重大な影響を与える事態も生起させている。また、国際社会では、核兵器廃絶問題と原子力平和利用の関係がどう変化してきたかに注目され出した。国際会議では「侵さざる権利」として、原子力平和利用の推進を認めているが、一方で、特に福島原発事故以降、「核の脅威は共通」という認識が広まりつつあり、きな臭い状況になってきた。

この状況の中で、以前この館報(平成十八年)で紹介した、『渚に 人類最後の日』という本を思い出した。この本は、実は、高校時代、物理の先生が授業中に熱心に薦めてくれた小説である。その頃、物理の授業では放射能のことを学習しており、生徒に興味を持たせる為に先生が紹介されたものである。私にとって記憶に残る一冊であり、また、前述した核にまつわる問題の糸口になるものだと思うので、再度紹介したい。

この小説は、東西緊張が高まり、とうとう核戦争に至り地球はオーストラリアを除いて死の灰を浴びる。残ったこの地にもやがて死の恐怖が訪れる。今では、東西緊張は少々古いが、死を前にした人々を見事に描いた秀作で印象深い。舞台はシドニーなのだが、その中で北半球から死の灰がオーストラリア北部にどの程度忍び寄っている

るか調べに潜水艦で北上するシーンがある。ケアンズ、ポート・モレスビー(現ニューギニア)、ダーウィンを調査する。グレートバリアリーフの広がる海を通り潜水艦が到着した頃、この地球の大切な遺産付近の陸地はすでに見えない灰で犯されていた。物語の中で行われた核戦争は、自らのテリトリーで行われたものの、結果はやはり南半球まで巻き添えにして終わる。

このように、この本は「来るべき核戦争」小説でも「放射線災害」小説でもない。刻々迫り来る放射性降下物という道具立てを使い、確実な死を前にして如何に死を受け入れていくのかという小説だ。そういう状況に置かれたときに、人はどう振舞うのか、どう振舞うべきなのか考えさせられる。そういった意味では、本との出会いは別世界を体験させてくれる出会いでもある。本の中には生きることのエネルギー源が詰まっっていて、どんな人にも忘れられない一冊があるのではないかと思う。特に、読むことは情報化社会(「活字離れ」といわれる時代だからこそ)の中ではますます必要になってくる。情報化が進むと断片的な情報を受け取るだけの受け身の人間になってしまい、自分でものを考えなくなる。自分でものを考える必要があるからこそ読書がますます必要なのである。読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなるものである。読書の習慣を若いうちに身に付けることが大切である。



933.7
シ

私の読書道

第18回

眼鏡に憧れ

教諭 河田 勤 (英語)

私は小さい頃はじっとして本を読むことは嫌いでした。小学校の時は体を動かすことが好きで暗くなるまで外で遊んでいました。でも高校生になって友達がたくさん本を読んでいることを知り、読書の大切さに気がきました。気づいたときに大学受験だったので落ち着いて読書にふける時間がありませんでした。大学受験が終わり、時間的に余裕ができる読書に夢中になりました。眼鏡をかけていると頭がよく見えるという当時の風潮があり、夜布団に横になって夜中まで本を読むことに没頭しました。英文科に進もうとしていたので海外の有名な作家の作品を片っ端から読み始めました。シェイクスピア、ディケンズ、ブロンテ姉妹、スタンダール、ミルトンからヨーロッパの作品全般、米文学のヘミングウェイ等を読み漁りました。話が単調な傾向にあります。特に困ったのはロシアの作家のやたら文章が長く日常生活の変化がほとん

どないドストエフスキーやただクジラの説明を長々としたメルヴィルでした。何度途中で投げ出そうかと思いましたが、この機を逃したら二度と読まないだろうと思い、また最後に大どんでん返しがあると思ひ読み続けましたが何もありませんでした。一通り海外の作品を読み終えると日本の作品を読みました。松本清張の『点と線』を読み、日本文学の心理描写の素晴らしさ、伏線の巧みさに引き込まれ時間を忘れて集中して読み終えたことを覚えています。赤川次郎、宮部みゆきの作品も面白かった。星新一の予期しない結末や話の展開が早い作品が好きになり、シドニー・シエルダンの作品が気に入りで原文でも読み、ハリ・ポッターも第4作までは原文で読みました。これからという時に五十歳を超えやっとな視力が落ち始めました。若かりし時あれほど眼鏡をかけた姿に憧れたのにその境遇になると、目が疲れて読む気力がわいてこないし、眼鏡もかけたくない。悲しい現実です。

若い時に本を読んで自分の感性を豊かにしてください。読み終わった後の余韻を楽しんでください。

※このコーナーは、図書選定委員の先生方のリレー形式となっています。

としよかんニュース

本校を思う心に感謝

先輩方から本の寄贈

日大山高校友会から本が寄贈されました。毎年寄贈していただいております。今回は長岡高弘氏です。これまでにいただいた図書は、三四三冊になりました。閲覧室内の専用書架にあります。先輩方の想いに感謝し、学習や調べ物に、大いに活用させていただきます。



本の魅力を伝える

全国高等学校ブリオバトルロイヤル山形県大会

昨年十一月に山形県で初めて開催されたブリオバトルに、本校からは鈴木渚菜子さんが参加しました。当日は大勢の観戦者を前に緊張しましたが、紹介する本に対する自分の思いを、会場の雰囲気を楽しみながら伝えられたそうです。

他校の高校生と本を通して交流ができ、新たな発見もあった良い機会となりました。次回はみなさんもぜひ挑戦してみてください。



みなさんをメッセージで支えます

パソコンの画面に注目です

みなさんは、閲覧室とカウンターにあるパソコンのスクリーンセーバーを見たことはありませんか？今年度から二台のパソコンのスクリーンセーバーに、定期考査や文化祭等までの日数をカウントダウン表示しています。

内容は随時変わるので、ぜひチェックしてほしいと思います。



平成二十九年 日本大学山形高等学校 芸術鑑賞会
2つの笑の 狂言と落語
 ～古典芸能鑑賞会～
 平成二十九年六月二十一日(水)
 山形市民会館 大ホール

古くからの笑い

三年六組 門田美羽

六月に芸術鑑賞会が行われ、日本の伝統芸能である狂言と落語を鑑賞した。鑑賞前は乗り気ではなかった生徒もいたようだが、会が始まると会場は笑いに包まれた。私自身もとても楽しく、古典芸能に興味をもつきっかけとなった会であった。

ステージで披露し会場を盛り上げたのは、名家「萬狂言」。三百年もの歴史と伝統がある萬狂言は、昔ながらの狂言で笑いを誘った。また体験コーナーでは、選ばれた生徒たちが体を張って狂言に挑戦し披露した。

落語の三遊亭遊馬師匠は、自身の声の大きさをアピールポイントとしていてテレビ番組への出演などしているが、実際に聞いても面白く表現力のある落語だった。

最後に宮田陽・昇さんによる漫才で締められたこの芸術鑑賞会は、古典的なことを楽しみながら学べたのではないだろうか。今までも、そしてこれからも変わらないであろう「笑い」に触れることができた、いい機会だった。



平成29年度
図書館講座
 ～読み聞かせをしよう～

平成29年度 図書館講座
「読み聞かせをしよう！」
 小学生の読書や絵本の鑑賞に
 絵本の読み聞かせをしてあげたいかな？
 ◎日時 2017年11月7日(火) 追加(予定)あわせて幼稚園にて
 ◎開催日 10月24日(火) 10月26日(木) 10月31日(火) 11月2日(木) 24:00～25:00 pm
 分限にて
 ※ 10月24日(火)は、あつぎ幼稚園にて開催予定です。
読み聞かせ
 は親子で楽しむ、読み・絵・音・色・匂い・触れ合いの楽しさを伝えること。子どもが興味・関心を持って読む楽しさを伝えること。絵本を通して、子どもが読書好きになること。
 ◎申し込み～開催まで、お申し込みは10月20日(日)までです。
 ◎申し込み先
 山形大学山形高等学校 図書館
 〒987-8502 山形県山形市山形1-1-1
 TEL:023-626-1111 FAX:023-626-1112
 E-MAIL:library@yamanagaku.ac.jp

こんな日程でやりました！

毎年行っている「図書館講座」八名の参加希望者が集まった。教員も一名、生徒達と一緒に、絵本を子ども達と楽しんだ。練習会を経て、あおぞら幼稚園に行つての本番。園児たちも、学童クラブの小学生たちも、そして参加者自身も、お互い少し緊張しながらも、存分に楽しみ、交流を図った。ほんの一时间ほどの短い時間だったが、絵本が仲介するコミュニケーションの楽しさを実感できたひとときだった。

《参加者アンケートより》
 ・小さい子が意外と元気がよくてかわいかった。ゆっくり、大きな声で、楽しく、が大切だと思った。(3年女子)
 ・子どもの前ですごく緊張して、汗が止まらなかった。練習会をやっていると良かった。少しは子どもとかわかるようになって良かった。(2年男子)
 ・緊張したが、練習の時よりも楽しく読むことができたのでよかった。(2年女子)

・人見知りだったけど、三年間参加したので、今年も緊張せずゆっくり読めた。他のみんなも練習会で上達して本番はすごくよかった。(3年女子)
 ・練習会が本番役に立った。本番は意外と緊張しなかった。最後に、「この本おもしろかった！」と言ってくれたのが何よりうれしかった。(2年女子)



幼稚園に行つての本番！



練習会

年間図書貸出ベスト10 日大山高生に人気のある本はこれ！

書名	著者名	請求番号
1位 『コンビニ人間』	村田沙耶香	913.6 ム
2位 『四月になれば彼女は』	川村 元気	913.6 カ
3位 『か「」く「」し「」ご「」と「」』	住野 よる	913.6 ス
4位 『檸檬』	梶井基次郎	913.6 カ
5位 『そして誰もいなくなった』	アガサ・クリスティ	933.7 ク
6位 『キノの旅 the beautiful world』	時雨沢恵一	913.6 シ
7位 『勉強に集中する方法』	須崎 恭彦	379.7 ス
8位 『リバース』	湊 かなえ	913.6 ミ
9位 『夜行』	森見登美彦	913.6 モ
10位 『何様(なにさま)』	朝井リョウ	913.6 ア

話題になった本や、ドラマ・映画化された小説が上位に多く入りました。他には勉強に関する本が読まれていて、学習への意識が高いことがわかります。みなさんには、もっといろんなジャンルの本を読んでほしいと思います。図書館にはさまざまな本が所蔵されているので、ぜひ足を運んでみてください。(2年 高橋 和花)



私の一冊



『5分で読める！ひと駅ストーリー』猫の物語

『10のミステリーがすごい！』編集部 編

この本は、総勢三三名の作家が描く、猫にまつわる様々なショートストーリーが入っている。題名のとおり、五分ほどで読めるので、普段読書をしていない人でも気軽に読むことができる。どの話も、最後にビックリするようなオチがある。猫について感動するような話や、笑える話、少しゾッとするような話があり、最後まで飽きずに読むことができる。



『5分で読める！ひと駅ストーリー』のシリーズは、猫の物語以外にも食や本の物語があり、図書館に所蔵されている。どれもおもしろくて、五分で読めるので、忙しい人や本を読むことを苦手としている人でも、ぜひ読んで欲しいと思う一冊だ。

一年四組 齋藤 怜奈

『人生はニャンとかなる！』

水野 敬也 長沼 直樹 著

日々、高校生活を過ごしている中で、部活や勉強などいろいろな事でストレスを感じる。そんな時この本を読むと癒されます。この本には、かわい猫の写真とそれに合った作者のメッセージが載っています。他にも、いろんな偉人の名言で感心させられたり、その偉人のおもしろいエピソードが載っているので、とても楽しく読む事ができます。



僕が勇気づけられたメッセージは、「すべての色に役割がある」です。このメッセージには、どんな人にもその人にしかできない役割がある。という作者の思いが込められているそうです。こんな勇気づけてくれるメッセージがたくさんあるのでぜひ読んでみてください。

二年八組 滝口 凌

多読クラス賞 受賞おめでとう！

「多読クラス賞」の表彰が、十二月十九日の終業式に行われました。各学年一位の三クラスに江口校長先生より、賞状が授与されました。今年度はほぼ全クラスに貸出があり、大変嬉しいです。これからもクラスのみなさんと、読書を楽しんでほしいと思います。

受賞クラス図書委員の感想

◆一年十一組 高校に入学して読書をする時間が以前より少ない中、クラスの中にたくさん本を読んでいる人が多いことに驚きました。読書ができる環境が身近にあるので、これからはより図書館を有効活用していければ良いと思います。

◆二年九組 二年連続で受賞できて嬉しいです。クラス中で読書を楽しんでくれたようです。来年も受賞できるように、たくさん読みたいと思います。

◆三年十二組 三年生ということもあり、高校生活最後に受賞できて良かったです。受験もあり忙しい中、少しずつ読書をしていました。多読クラス賞を意識せずに読んでいたのが、功を奏したのかもしれない。高校を卒業しても、読書をしていきたいと思っています。



- ★1年11組 3.6冊
- ★2年9組 9.4冊
- ★3年12組 4.3冊
- 全校生全体 1.3冊

※平成29年4月～11月までの貸出冊数÷各クラスの人数で集計

学年・コース別で受賞！ベストリーダー賞！

二月一日にベストリーダー賞の受賞者が決まり、該当する三八名に賞状と賞品が贈られました。受賞されたみなさんに喜んでいただけようです。部活動や学習等で忙しいなか、時間を作って読書をして、との声が多かったです。これからも読書を通して、より自分の世界を広げてほしいと思います。

学年別部門

3学年	2学年	1学年
1位 142冊	1位 114冊	1位 49冊
2位 84冊	2位 65冊	2位 28冊
3位 63冊	3位 53冊	3位 23冊
4位 50冊	4位 50冊	4位 18冊
5位 37冊	5位 36冊	5位 14冊
6位 34冊	6位 31冊	6位 13冊
7位 33冊	(3名)	7位 12冊
8位 32冊	9位 27冊	8位 11冊
9位 22冊	(2名)	9位 7冊
10位 20冊		(2名)

コース別部門

特進コース	進学コース	スポーツコース
1位 23冊	1位 22冊	1位 8冊
(2名)	2位 17冊	2位 7冊
3位 21冊	3位 15冊	

※平成29年4月～平成30年1月31日までの、個人の総貸出冊数で集計

図書委員会活動報告



図書委員長を経験して

前期委員長 三年九組 清野 英子

私は一年生の頃から図書委員会の一員として活動してきました。二年生になり、私はずっと日大山高生に図書館を利用してもらいたいと思い、委員長になりました。最初は不安でしたが、先生方や執行部と協力して一年間頑張ることができました。本の貸出冊数や閲覧室の利用者が増えたのが、図書館だよりを見てわかります。新刊が出ると本を借りる人が増えました。多くの人が図書館を利用してくれていて、とても嬉しかったです。一年間本当にありがとうございました。



よりよい環境作りのために

後期委員長 二年九組 二瓶 真衣

後期図書委員会が発足し、数カ月が経ちました。私はこれまで、「図書館の利用者数を増やす」という目標を掲げ、活動してきました。目標達成のために、私は全校生徒の声を大切にしていこうと思います。意見や要望を積極的に取り入れることでより良い図書館にすることができ、自ずと利用者も増えると思うからです。

これからも図書委員一丸となって頑張っていきますので、よろしくお祈りいたします。

活動目標 ● 本の魅力に出会える場所に キャッチフレーズ ● 頭よくなるとか夕べになるとかじゃなくて、ただ面白いの

図書委員会は常時活動のほかにも、様々な活動を行いました。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 4月10日(月) 新1年生へ利用者カード、利用案内配布 | 10月3日(火) 後期図書委員会発足 |
| 4月25日(火) 第1回 前期図書委員会 | 10月19日(木) 書店にて本の購入 |
| 5月25日(木) 書店にて本の購入 | 11月1日(木) 高教研図書委員研修会 |
| 6月9日(金) キャッチフレーズ決定 | 11月11日(土) 「日大図書通信」発行 |
| 6月13日(火) 「日大図書通信」発行 | 12月11日(月)~13日(水) 雑誌リサイクル |
| 6月14日(水)~16日(金) 雑誌リサイクル | 12月18日(月) 「日大図書通信」発行 |
| 7月10日(月) 第2回 前期図書委員会 | 12月19日(火) 多読クラス表彰 |
| 7月31日(月)~8月2日(水) 蔵書点検 | 2月1日(木) ベストリーダー決定 |
| 8月26日(土)~27日(日) 桜華祭 古本市 | 2月14日(水) 「日大図書通信」発行 |
| 9月20日(水) 「日大図書通信」発行 | 2月28日(水) 図書館報 発行 |
| 9月26日(火) 執行部で「前期の総括 | 3月19日(月) 執行部で「後期の総括 |

常時活動

A (読書推進)、B (資料装備)、C (広報・データ)の3グループがあり、曜日当番として月曜~土曜までの6つの班にそれぞれ分かれて活動しています。



Aグループ



Bグループ



Cグループ



ライブラリーフォト

～図書館・図書委員この1年～



平成29年度 図書館委員会

桜華祭での古本市など大きな行事・企画でも、執行部を中心に、協力し合い楽しみつつ、一生懸命取り組んでいます。

三組 設楽 唯	二組 青木 郁真	一組 新関 和貴	◆二学年	十二組 小山 健吾	十一組 小山 璃乃	十組 原田 唯菜	九組 工藤 香太	八組 大沼 拓矢	七組 永田 竜椰	六組 渋谷 桃子(前)	五組 丸山 航太(後)	四組 加川 虎汰(前)	三組 安達 美帆(前)	二組 伊藤 拓翔	一組 深瀬 太陽
工藤 大輝	菅原 侑磨	菅原 鳳成		菅井 淳	菅野 真生	瀬田川 享(前)	志田 瑞樹	福田 晟丞	松田 仁成	山本 一徹(前)	渡部 明日香(前)	佐藤 匡	齋藤 優里	金子 優斗	渡辺 汐音
◆三学年	十二組 近藤 勇斗	十一組 都市 深緒奈	十組 白鳥 拓	九組 清野 英子	八組 石澤 将平	七組 岩崎 朱莉	六組 門田 美羽	五組 熊谷 壮一郎	四組 小川 結愛	三組 半沢 圭哉	二組 莊司 和樹	一組 鈴木 海翔	四組 菅原 悠人	五組 鈴木 渚菜子	六組 板垣 朱莉
※(前)：前期のみ	松田 亮	堀米 晃子	安田 海	山澤 翔太	清水 翔太	山口 飛鳥	金子 神偉	桑原 祐介	岩田 尚樹	村形 礼翔	鈴木 義斗	峰田 悠生	山川 竜希	大場 美結	高橋 和花
(後)：後期のみ															

◆前期執行部

委員長 三年九組 清野 英子

副委員長 三年七組 山口 飛鳥

グループリーダー A 三年十組 安田 海

B 三年十組 白鳥 拓

C 三年九組 山澤 結

二年生代表 二年九組 二瓶 真衣

◆後期執行部

委員長 二年九組 二瓶 真衣

副委員長 二年八組 奥田 恭介

グループリーダー A 二年七組 高橋 和花

B 二年六組 大場 美結

C 二年十組 大内 開登

一年生代表 一年十組 原田 唯菜

執行部を中心に、利用しやすい図書館になるよう、日々活動しています。

編集後記

今年は雪が積もっては融け…を繰り返していましたが、周りには凛とした空気が流れ、冬景色が広がっています。昨年は初めて山形県で全国高等学校ビブリオバトルが開催され、本の魅力を伝えることの楽しさと難しさを知る良い機会となりました。ビブリオバトルや読み聞かせを通して、私達と1冊の本との出会いを繋ぐのは、職業や年齢を超えたコミュニケーションから始まることを、改めて感じました。これからも、生徒や教職員が、本や様々な想いと出会うことができる図書館でありたいと思います。(芳賀)